

北陸学院大学幼児児童教育学科における器楽教育（ピアノ）の取り組み

An Approach to Instrumental Education in the Department of Childhood Education of Hokuriku Gakuin University

多保田 治 江*

要旨

北陸学院大学人間総合学部幼児児童教育学科が開学して4年目を迎えた。器楽教育（ピアノ）のための授業においても現在の授業スタイルや授業内容が1サイクルを迎えたことを契機に学生の音楽歴と授業の感想について調査を行うことによって現状分析し、改善に向けて取り組むこととした。調査の結果、養成校の4年間でピアノの演奏能力を身に付けなければならない学生が多いことが分かった。小学校教諭や保育者に必要なピアノの演奏能力について考え、自分なりに到達目標を持つことが大切であることを提言するものである。

キーワード：幼児児童教育／器楽教育（ピアノ）／到達目標

I はじめに

北陸学院大学人間総合学部幼児児童教育学科が開学して4年目を迎えた。幼児児童教育学科では本年よりコース制を導入することになり、小学校教諭・幼稚園教諭の免許取得を目指す「児童教育コース」と幼稚園教諭・保育士資格の免許取得を目指す「幼児保育コース」と認定心理士・一般企業就職・大学院進学を目指す「人間理解コース」の3コースに分かれて学ぶこととなった。器楽の基礎知識や技能を学ぶ「器楽Ⅰ」「器楽Ⅱ」は「児童教育コース」と「幼児保育コース」の共通科目として位置づけられた1年生対象の自由科目である。¹⁾ 授業スタイルは90分1コマを2グループに分け、それぞれ半コマずつグループレッスンと個人レッスンの両方が受講できるようにしている。この授業スタイルは4年制の大学となってから始めたものであり、本年で1サイクルを迎えた。そこで学生の音楽歴と授業の感想について調査を行うことによって現状分析し、幼児児童教育学科における器楽教育（ピアノ）の改善に向けて考えることが本論の研究目的である。

II 本学の音楽関連科目と器楽教育

2011年度はカリキュラムの移行期で器楽教育にかかわる授業の名称が旧カリキュラムでは「演奏の基礎」・「音楽科演習」であったが、新カリキュラムでは「器楽Ⅰ」・「器楽Ⅱ」に変更となった。また、選択科目から自由科目となった。旧カリキュラムならびに新カリキュラムの音楽にかかわる授業と器楽教育（ピアノ）との関連は次の通りである。

旧カリキュラム

- 1年前期「音楽の基礎」 — 読譜・子どもの歌を歌う
- 1年後期「演奏の基礎」 — 各自に応じたピアノ作品
リズム曲
子どもの歌の弾き歌い
- 1年通年「子どもと表現Ⅰ 音楽表現」 — リズム曲
- 2年前期「音楽科演習」 — 各自に応じたピアノ作品
リズム曲
子どもの歌の弾き歌い
小学校音楽科 歌唱教材
の弾き歌い
- 3年前期「音楽科教育法」 — 初等教育における音楽科
教育の指導法

新カリキュラム

- 1年前期「器楽Ⅰ」 — 各自に応じたピアノ作品

* TABOTA, Harue

北陸学院大学 人間総合学部 幼児児童教育学科
音楽科, 器楽Ⅰ・Ⅱ, 音楽表現Ⅰ・Ⅱ

- リズム曲
 子どもの歌の弾き歌い
 1年前期「音楽表現Ⅰ」 — 読譜・子どもの歌を歌う
 1年後期「器楽Ⅱ」 — 各自に応じたピアノ作品
 リズム曲
 子どもの歌の弾き歌い
 小学校音楽科 歌唱教材
 の弾き歌い
 1年後期「音楽表現Ⅱ」 — 読譜・子どもの歌を歌う
 2年前期「音楽」 — 読譜・子どもの歌の弾き
 歌い
 小学校音楽科 歌唱教材
 の弾き歌い
 2年後期「音楽科教育法」— 初等教育における音楽科
 教育の指導法
 2年後期「保育内容 表現Ⅰ」—リズム曲
 子どもの歌の弾き歌い

「器楽Ⅰ」・「器楽Ⅱ」の授業スタイルは90分
 1コマを2グループに分け、それぞれ半コマずつ
 グループレッスンと個人レッスンの両方が受講で
 けるようにしている。

個人レッスンは1教員が3名のピアノレッスン
 を担当するため、1名あたり15分程度のレッ
 スン時間となる。「器楽Ⅰ」の授業内容は「各自
 に応じたピアノ作品」「リズム曲」「子どもの歌
 の弾き歌い」をテキストとして扱っている。「各
 自に応じたピアノ作品」はピアノの進捗によっ
 てグレード1～3の課題曲を演奏する。「リズム
 曲」は5曲以上、「子どもの歌の弾き歌い」は7
 曲以上を15回の授業内に履修することになっ
 ている。「器楽Ⅱ」の授業内容は「児童教育コー
 ス」と「幼児保育コース」のコースによって、「小
 学校音楽科 歌唱教材の弾き歌い」と「子どもの
 歌の弾き歌い」の履修曲の割合が変わるよう
 になっている。また、「各自に応じたピアノ作品」
 は15回ある授業の7回目で終了し、「リズム曲」
 や「小学校音楽科 歌唱教材の弾き歌い」と「子
 どもの歌の弾き歌い」のレパートリーを増やすよ
 うにしている。「リズム曲」は5曲以上、「小学校
 音楽科 歌唱教材の弾き歌い」と「子どもの歌の
 弾き歌い」から7曲以上を15回の授業内に履修
 することになっている。

グループレッスンは1教員が12名を担当す

る。「器楽Ⅰ」の授業内容はキーボードを使用し
 て「指のトレーニング」、「コードネームを用いた
 伴奏づけ」を行う。「器楽Ⅱ」の授業内容はキー
 ボードを使用して「コードネームを用いた伴奏づ
 け」やさまざまな楽器を用いて「アンサンブル」
 を行う。このような授業スタイルとなって4年目
 の1サイクルを迎えたことを契機に幼児児童教育
 学科における器楽教育（ピアノ）の改善に向けて
 調査を実施した。

＜調査方法＞

「器楽Ⅰ」・「音楽科演習」の授業時間内に質問
 紙を配付し回収した。

＜調査期間＞

2011年7月

＜調査対象＞

調査対象は、「器楽Ⅰ」を受講している1年
 生87名・「音楽科演習」を受講している2年生
 66名（3年生1名・4年生2名を含む）である。
 回収率1年生93.5% 2年生98.5%

＜調査内容＞

紙面による質問調査の内容は、Q1音楽歴、Q
 2ピアノ演奏に対する嗜好状況、Q3授業につい
 て、Q4コードネームについて、Q5小学校教諭
 や保育者に必要なピアノの演奏能力についてであ
 る。

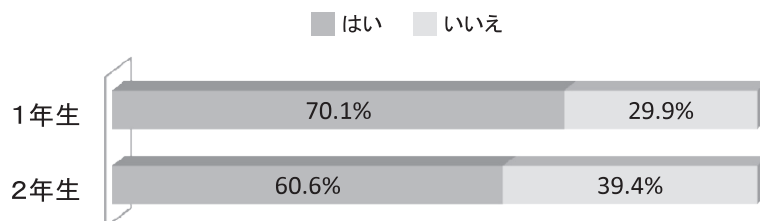
Ⅲ 調査結果と考察

Q1 音楽歴

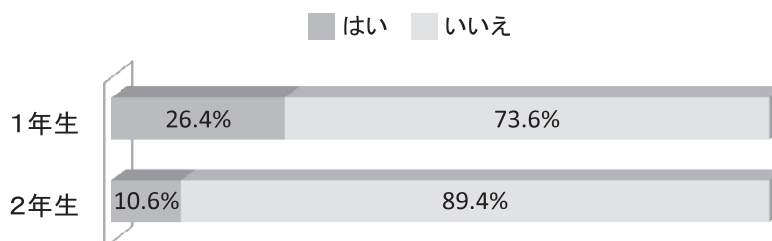
学生の音楽歴について調査した結果がグラフ
 1・グラフ2・グラフ3・グラフ4である。

1年生では約30パーセント、2年生では約
 40パーセントの学生が大学入学までピアノレッ
 スンを受けたことのない初心者であった。大学の
 授業以外にピアノレッスンを受けているかどうか
 という質問に対しては、1年生では26.4パー
 セント、2年生では10.6パーセントが学外で
 ピアノレッスンを受けていた。特に、1年生では、
 大学入学以前にピアノレッスンを受けていた学生
 の約35パーセントの学生が授業以外でもピアノ

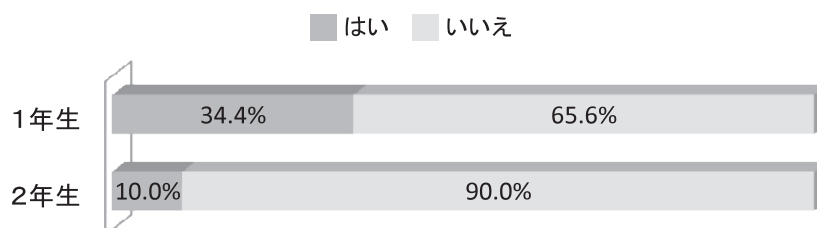
グラフ1 大学入学以前にピアノレッスンを受けたことがありますか



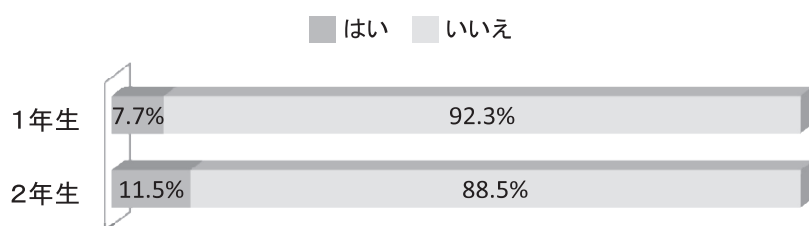
グラフ2 授業以外にピアノレッスンを受けていますか



グラフ3 はいの学生 授業以外にピアノレッスンを受けていますか



グラフ4 いいえの学生 授業以外にピアノレッスンを受けていますか



レッスンを受けていることが分かった。

大学入学以前にピアノレッスンを受けたことのある学生のピアノレッスンを受けた期間について調査した結果がグラフ5・グラフ6である。

1年生では小学校中学年、2年生では小学校高学年がピークで、次に大学入学直前の高等学校

3年次に多くの学生がピアノレッスンを受けていた。中には2歳から現在に至るまで継続して17年間ピアノレッスンを受けている学生がいた。10年以上ピアノレッスンを受けた学生は2年生では7名、1年生では16名いた。高等学校からつまり大学の志望が決まってからピアノレッスン

を受けた学生は2年生では7名、1年生では14名いた。大学入学以前にピアノレッスンを受けたことがあるといっても幅広いことが分かった。

ピアノレッスンを止めた理由を調査した結果が表1である。

事前に練習が必要な習い事のために、勉強との両立ができずに止めたという理由が60パーセントを占めた。

Q2 ピアノ演奏に対する嗜好

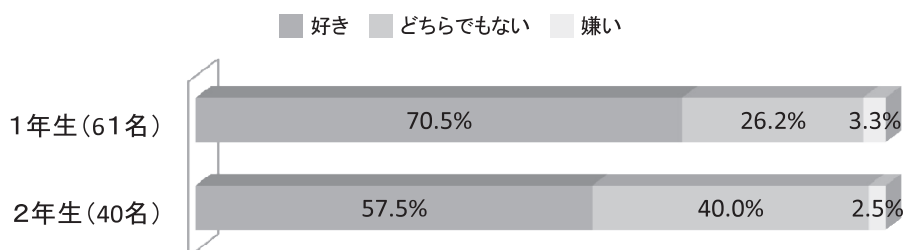
ピアノ演奏に対する嗜好について「好き」、「どちらでもない」、「嫌い」という質問形態で尋ねた結果がグラフ7・グラフ8である。

大学入学以前にピアノレッスンを受けたことがある学生の嗜好状況は、1年生では約70パーセント、2年生では約60パーセントが「好き」と回答した。一方大学に入って初めてピアノレッス

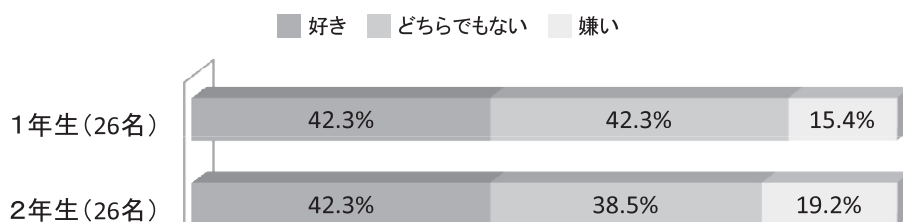
表1 ピアノレッスンを止めた理由

	ピアノレッスンを止めた理由	1年生	2年生	総計
1	クラブ活動や他の習い事で練習時間が取れなくなり止めた。	14	13	27
2	転居したので止めた。	8	10	18
3	高校受験の勉強のために止めた。	6	6	12
4	大学受験の勉強のために止めた。	3	2	5
5	レッスンについていけなくなって止めた。(譜読みが苦手)	3	0	3
	ピアノに興味なくなったので止めた。	2	1	3
	ピアノの先生と相性が悪かったので止めた。	1	2	3
8	中学校に入学すると忙しくなると聞いて止めた。	2	0	2
	習っていた先生の都合で止めた。	1	1	2
	練習することがいやになって止めた。	1	1	2
11	大学の時間割とレッスン日が合わなくなって止めた。	1	0	1
	ピアノでなくキーボードで練習していたので無理があり止めた。	1	0	1
	成績が下がったので止めた。	1	0	1

グラフ7 大学入学以前にピアノレッスンを受けたことがある学生の嗜好状況



グラフ8 大学に入って初めてピアノレッスンを受けた学生の嗜好状態



ンを受けた学生の嗜好状況は1年生・2年生ともに同じ傾向で「好き」、「どちらでもない」がいずれも約40パーセントを占め、「嫌い」という学生も約20パーセントいた。

その理由を尋ねた結果が表2-1・表2-2である。

ピアノ演奏が「好き」な理由は、「演奏できる

と気持ちがいいので（達成感）好きである」という回答が一番多かった。次に、「ピアノを弾くことは気分転換（楽しい、落ち着く）になるので好きである」であった。いずれも心的な面での指摘が多かった。「どちらでもない」理由は、曲目による好みの差や、思うように弾けないという技術面での困難さがあるもののピアノを演奏することは好きであるという回答が多かった。

表2-1 大学に入って初めてピアノレッスンを受けた学生の嗜好状態

好きな理由		1年生	2年生	総計
1	演奏できると気持ちがいいので（達成感）好きである。	4	7	11
2	ピアノを弾くことは気分転換（楽しい・落ち着く）になるので好きである。	6	3	9
3	音楽が好きである。	1	1	2
	ピアノの音が好きである。	1	1	2

どちらでもない理由		1年生	2年生	総計
1	演奏曲によって好き・嫌いがある。	4	7	11
2	思うようにまだピアノが演奏できないが、演奏することは好きである。	3	3	6
3	演奏できると楽しいが、練習が嫌いである。	3	0	3
4	現在ピアノが好きになりかけている。	1	0	1

嫌いな理由		1年生	2年生	総計
1	ピアノを演奏することは難しいから嫌いである。	4	3	7
2	練習しなければピアノを演奏することができないので嫌いである。	0	2	2

表2-2 大学入学以前にピアノレッスンを受けたことのある学生の嗜好状態

好きな理由		1年生	2年生	総計
1	演奏できると気持ちがいいので（達成感）好きである。	16	12	28
2	ピアノを弾くことは気分転換（楽しい・落ち着く）になるので好きである。	19	6	25
3	音楽が好きである。	7	8	15
4	ピアノを演奏することが好きである。	5	0	5
5	ピアノは練習すると弾けるようになるので好きである。	1	0	1

どちらでもない理由		1年生	2年生	総計
1	思うようにまだピアノが演奏できないが、演奏することは好きである。	8	2	10
	演奏曲によって好き・嫌いがある。	3	7	10
3	演奏できると楽しいが、練習が嫌いである。	1	6	7
4	ピアノ演奏は好きだが、人前だと緊張する。	1	0	1
	現在ピアノが好きになりかけている。	1	0	1
	ピアノ演奏は苦手だが、嫌いでもない。	1	0	1
	ピアノ演奏は好きだが、弾き歌いが苦手である。	1	0	1
	ピアノ演奏は苦手だが、弾き歌いで歌うことができるので好きである。	0	1	1

嫌いな理由		1年生	2年生	総計
1	ピアノを演奏することは難しいから嫌いである。	1	1	2
2	苦手意識がある。	1	0	1

Q3 授業について

個人レッスンの「各自に応じた自由曲」はピアノの進度によって3段階のグレード制で実施している。履修に無理がないように学生の自己申告でグレードを決めている。本年度は次の通りである。（表3）

個人レッスンとグルプレッスを並行して行っているため、それぞれの感想を学生に求めた。「指導法」、「授業時間」、「担当者」、「指導内容」、「指導人数」、「学生の取り組み・変化」の6つのカテゴリーに感想を分類し、考察を行った。

表3 グレード

	I	II	III	IV
1年生	63.2%	17.2%	19.5%	0
2年生	0	72.7%	25.8%	1.5%

個人レッスン（表4）

一番多かった感想の「丁寧な指導で分かりやすかった。基礎から学べた。」は回答数の32.6パーセントであった。2番目に多い感想の「楽しい授業であった。」は14.7パーセントであった。初歩の学生にも楽しくピアノ演奏が学べるように器楽担当者のチームティーチングの打ち合わせで話し合い、実行しているので学生に我々の思いが伝わったことは嬉しいことである。3番目に多い感想の「各自のレベルに対応した授業なので学びやすかった。」は8.7パーセント、「演奏能力がついた。」が5.4パーセント、「真剣に授業に取り組んだ。」・「担当者が優しかった。」が4.9パーセントであった。

カテゴリーの分類では、多い順に1「指導法」、2「指導内容」、3「担当者」・「学生の取り組み・変化」、5「指導人数」、6「授業時間」であった。

表4 個人レッスン

	感想	1年		2年		計
		初心者	経験者	初心者	経験者	
1	丁寧な指導で分かりやすかった。基礎から学べた。	13	25	12	10	60
2	楽しい授業であった。	3	6	5	13	27
3	各自のレベルに対応した授業なので学びやすかった。	3	8	2	3	16
4	演奏方法の細部まで学べて、復習しやすかった。	2	5	0	5	12
5	演奏能力がついた。	1	2	1	6	10
6	担当者が優しかった。	4	1	3	1	9
	真剣に授業に取り組んだ。充実した授業であった。	5	0	2	2	9
8	質問がしやすくてよかった。	2	2	2	2	8
9	レッスン時間が短く感じた。	0	5	1	1	7
10	少人数で授業が受けやすかった。	1	2	1	1	5
11	リラックスして弾ける雰囲気がよかった。	2	1	0	1	4
	リズム曲や子どもの歌の弾き歌いが難しかった。	1	1	1	1	4
13	各自で演奏曲を選択できるので学びやすかった。	0	0	0	2	2
	ピアノ演奏に興味を持てるような授業であった。	1	0	1	0	2
	練習時間を取ることが難しかった。	1	0	0	1	2
	各自に応じた曲・リズム曲・子どもの歌とは課題が多かった。	0	0	0	2	2
17	各自に応じた曲は楽しかった。	0	1	0	0	1
	周りの学生の進度が高く焦った。	1	0	0	0	1
	模範演奏があり、分かりやすかった。	1	0	0	0	1
	レッスンについていけなかった。	1	0	0	0	1
	演奏の表現力をもっと習いたかった。	1	0	0	0	1

グループレッスン（表5）

一番多かった感想は「楽しい授業であった。（子どもの歌の伴奏づけ）」が回答数の25.0パーセントであった。2番目に多かった感想は、2年生のみの回答であったが、授業でさまざまな楽器を用いてアンサンブルを行うプログラムがあり、そのプログラムに関連した感想で「さまざまな楽器に触れられてよかった。」が13.6パーセントであった。次いで「丁寧な指導で分かりやすかった。基礎から学べた。」が12.5パーセント、「真剣に授業に取り組んだ。」が6.8パーセント、「授業進度が少し速いと感じた。」が6.3パーセントであった。

カテゴリーの分類では、多い順に1「指導内容」、2「学生の取り組み・変化」、3「指導人数」、4「担当者」、5「指導法」、6「授業時間」であった。

授業のための準備

調査した結果が表6・表7である。

週5回～週7回授業に備えてよく準備をしている学生もいたが、あまり練習しない学生もいた。週5回以上練習する学生はピアノを練習することに対して積極的な理由であったが、週4回以下になるとマイナス思考の理由であった。授業のための準備については学生の問題もあるが時間割などとも関係するので今後の課題である。

表5 グループレッスン

	感想	1年		2年		計
		初めて	経験者	初めて	経験者	
1	楽しい授業であった。（子どもの歌の伴奏づけ）	4	10	10	20	44
2	さまざまな楽器に触れられてよかった。	0	0	11	13	24
3	丁寧な指導で分かりやすかった。基礎から学べた。	16	3	2	1	22
4	真剣に授業に取り組んだ。	2	6	1	3	12
5	授業進度が少し速いと感じた。	3	3	2	3	11
6	指導レベルが高かった。	4	1	1	2	8
7	コードネームなど専門的なことが学べた。	2	4	0	0	6
8	さまざまなレベルの学生がいるので、練習に熱が入った。	3	3	0	0	6
9	指導レベルがやさしかった。	0	5	0	1	6
	真剣に授業に取り組んだ。充実した授業であった。	2	4	0	0	6
11	さまざまなレベルの学生がいた。	0	2	1	1	4
12	指導レベルが徐々に上がった。	1	2	0	0	3
	担当の教師がおもしろかった。	0	2	1	0	3
	さまざまな歌や音楽に触れられてよかった。	2	0	0	1	3
	皆で演奏するなど、グループレッスンならではの授業であった。	0	0	1	2	3
16	担当の教師が優しかった。	1	0	0	1	2
	課題発表は緊張した。	0	0	0	2	2
	さまざまな歌や音楽が演奏できるようになった。	1	1	0	0	2
	リズムについて詳しく学べた。	2	0	0	0	2
20	皆で演奏する時に、自分のペースでなかったので間違えた。	1	0	0	0	1
	課題に取り組むことが楽しかった。	1	0	0	0	1
	初見演奏が難しかった。	1	0	0	0	1
	楽譜の読み方が分かるようになった。	1	0	0	0	1
	グループレッスンは緊張感があってよかった。	1	0	0	0	1
	他の学生の表現方法が見られてよかった。	1	0	0	0	1
	練習時間を取ることが難しかった。	0	1	0	0	1

表6 授業の準備

	1年生			2年生		
	グレード1	グレード2	グレード3	グレード2	グレード3	グレード4
週7回	1/3		0/1			
週6回	0/1					
週5回	4/3	1/0	0/2	0/1	0/2	
週4回	2/5	0/3	0/4			
週3回	5/7	0/5	0/7	2/5	0/4	
週2回	12/7	0/6	0/2	13/11	0/6	
週1回	1/4		0/1	9/6	1/4	0/1
やらない				1/0		

※ 大学に入って初めてピアノレッスンを受けた学生 / 大学入学以前にピアノレッスンを受けたことがある学生

表7 主な理由

週7回	・毎日練習することによって演奏能力が身につくと考えた。
週6回	・だいたい毎日練習するように心がけた。
週5回	・多くの曲を弾けるようになりたいので、ほぼ毎日練習するように心がけた。 ・ピアノは一夜漬けで弾けるものではないので、ほぼ毎日練習するように心がけた。
週4回	・勉強やレポートの課題があり、練習時間が限られた。 ・授業の空き時間に練習しているので時間が限られた。
週3回	・勉強やレポートの課題があり、練習時間が限られた。 ・授業の空き時間に練習しているので時間が限られた。
週2回	・勉強やレポートの課題があり、練習時間が限られた。 ・練習時間が2回しか取れなかった。
週1回 やらない	・練習時間がなかなか取れなかった。

Q4 コードネームについて

子どもの歌の伴奏づけとしてコードネームを用いて指導を行っているのでコードネームを大学入学以前から知っているかどうかを質問した結果が。グラフ9・グラフ10・グラフ11である。

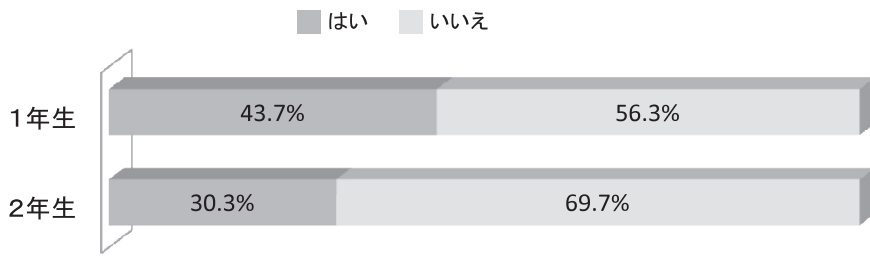
1年生では約45パーセント、2年生では約30パーセントの学生が既に知っていた。その習熟度は大学入学以前にピアノレッスンを受けたことのある学生では1年生約60パーセント、2年生約40パーセントであったのに対して大学に入って初めてピアノレッスンを受けた学生では1年生約10パーセント、2年生約20パーセントと大きな差がみられた。

コードネームの指導者は音楽の教諭・ピアノや電子ピアノの先生・ギターの先生・父親であった。その目的は、ギター演奏・伴奏づけ・吹奏楽部のハーモニー作りの一環として学んだようである。

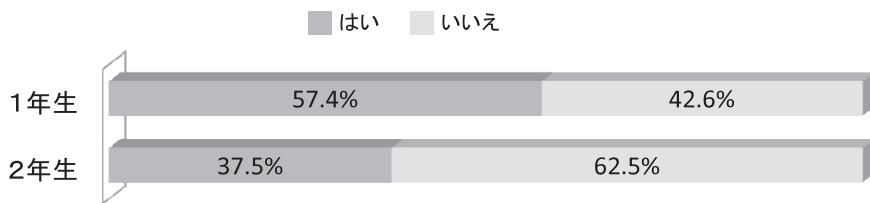
コードネームを用いた伴奏づけの習熟度

1年生・2年生のコードネームを用いた伴奏づけの習熟度について調査した結果がグラフ12・グラフ13である。「無理なく伴奏づけできる」と「ハ長調ならば伴奏づけができる」を合わせると約60パーセントの学生が伴奏づけできるという1年生・2年生ともに同じ傾向を示した。「大学入学以前にピアノレッスンを受けたことがある学生」と「大学に入って初めてピアノレッスンを受けた学生」という視点から習熟度を調査した結果がグラフ14・グラフ15・グラフ16・グラフ17である。「伴奏づけがあまりできない」という項目において「大学入学以前にピアノレッスンを受けたことがある学生」は1・2年生ともに約30パーセントの回答であったが、大学に入って初めてピアノレッスンを受けた学生」では1・2年生ともに約50パーセントの回答という明らかな差がみられた。

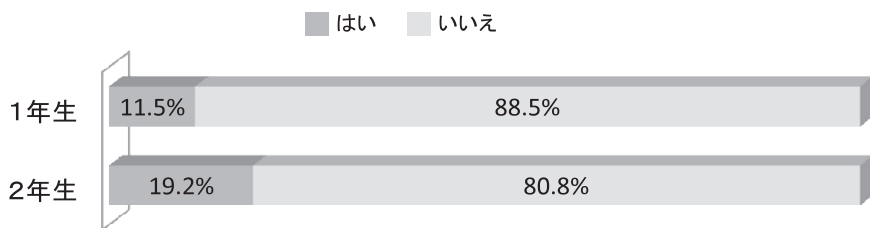
グラフ9 コードネームを大学入学以前から知っていましたか



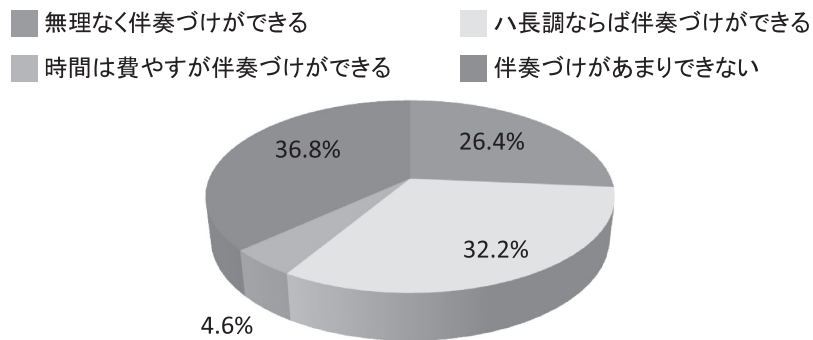
グラフ10 大学入学以前にピアノレッスンを受けたことのある学生の習熟度



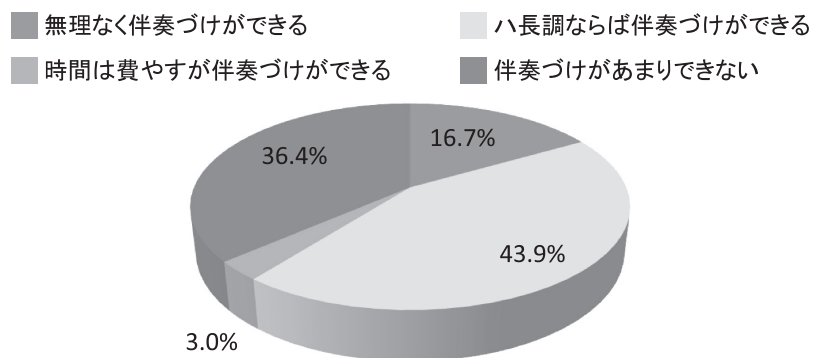
グラフ11 大学に入って初めてピアノレッスンを受けた学生の習熟度



グラフ12 1年生 コードネームを用いた伴奏づけの習熟度

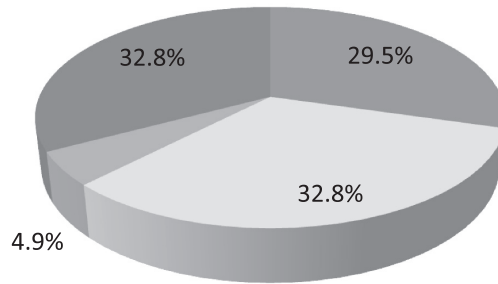


グラフ13 2年生 コードネームを用いた伴奏づけの習熟度



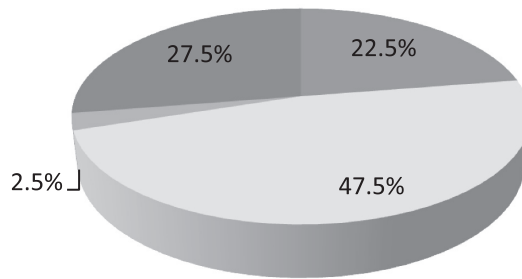
グラフ 14 1年生 大学入学以前にピアノレッスンを受けたことのある学生のコードネームを用いた伴奏づけの習熟度

- 無理なく伴奏づけができる
- 時間は費やすが伴奏づけができる
- ハ長調ならば伴奏づけができる
- 伴奏づけがあまりできない



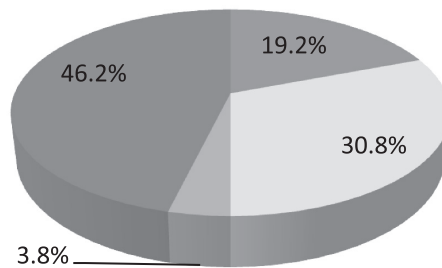
グラフ 15 2年生 大学入学以前にピアノレッスンを受けたことのある学生のコードネームを用いた伴奏づけの習熟度

- 無理なく伴奏づけができる
- 時間は費やすが伴奏づけができる
- ハ長調ならば伴奏づけができる
- 伴奏づけがあまりできない



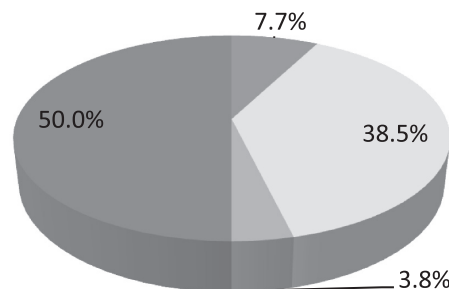
グラフ 16 1年生 大学に入って初めてピアノレッスンを受けた学生のコードネームを用いた伴奏づけの習熟度

- 無理なく伴奏づけができる
- 時間は費やすが伴奏づけができる
- ハ長調ならば伴奏づけができる
- 伴奏づけがあまりできない



グラフ 17 2年生 大学に入って初めてピアノレッスンを受けた学生のコードネームを用いた伴奏づけの習熟度

- 無理なく伴奏づけができる
- 時間は費やすが伴奏づけができる
- ハ長調ならば伴奏づけができる
- 伴奏づけがあまりできない



毎年実施されている保育士試験の音楽試験課題は「子どもの歌」を2曲弾き歌いすることである。平成16年までは受験の手引きの伴奏譜を標準に演奏することとなっていたが、平成17年からはメロディーとコードネームが書かれた楽譜が受験手引きに掲載され、市販の楽譜を用いるか、受験手引きに掲載された楽譜のコードネームを参照して編曲したものをを用いて演奏することとなった。今までに、ハ長調・ヘ長調・ト長調・ニ長調の「子どもの歌」が課題となっている。²⁾

コードネームは伴奏をアレンジして弾くこともできるので、コードネームを用いた伴奏づけが少なくともシャープ・フラット2つまではできるようにすることが必要である。

Q5 小学校教諭や保育者に必要なピアノの演奏能力について

1・2年生がこれまでの経験・授業・実習を通して小学校教諭や保育者には次のようなピアノの演奏能力が必要だと考えていることが分かった。

- ・リズム曲や歌の伴奏が止まらずに演奏できる。
- ・子どもが歌いやすい伴奏が演奏できる。
- ・さまざまな歌が弾き歌いできる。
- ・初見で演奏できる。
- ・合唱の伴奏ができる。
- ・人前で堂々と演奏できる。

このような結果から、各自が小学校教諭や保育者に必要なピアノの演奏能力について考え、自分なりに到達目標を持つことは意欲的に授業に取り組むことにつながると思われた。

IV おわりに

学生の音楽歴・ピアノ演奏に対する嗜好状況・授業について・コードネームについて・小学校教諭や保育者に必要なピアノの演奏能力について調査し、現状分析を行った。学生の音楽歴には個人差が大きいことが分かった。また、授業のための準備にも個人差がみられた。学生の問題もあるが時間割や他教科との関係もあるので学科内でどのような小学校教諭や保育者を育てたいか話し合う必要があると思われた。コードネームを用いた伴奏づけができることは大切なことであるにもかか

わらず、大学に入って初めてピアノレッスンを受けた学生には困難さを感じていることが分かった。

器楽教育の課題は多くある。第1に「保育者になるにはピアノが弾けることが必要」と以前は言われ大学入学以前にピアノレッスンを受けてきたものだったが、現在は違う。養成校の4年間で身につけなければならない学生が多いという課題である。

第2に授業内容が「各自に応じたピアノ作品」、「リズム曲」、「小学校音楽科 歌唱教材の弾き歌い」、「子どもの歌の弾き歌い」など数多くあり履修時期をどのようにするかという課題がある。

第3に小学校教員採用試験にピアノの実技試験がある。また、幼稚園や保育所の就職試験に「子どもの歌の弾き歌い」や「リズム曲」を課すことが多い。2011年度入学者は1年次に「器楽Ⅰ」「器楽Ⅱ」を履修することになっており、2年生、3年生、4年生では個々に器楽を指導する授業がない。授業の開講時期についての課題である。

今回は学生の実態把握を中心に器楽教育（ピアノ）の取り組みについて考えた。もう一方現場がどのような器楽の演奏能力を持った人材を求めているか、さらに研究を深めていきたい。

<引用・参考文献>

- 1) 『学生要覧 2011年度』北陸学院大学 2011年4月1日発行
- 2) 『平成16年 保育士試験受験の手引き』社団法人全国保育士養成協議会 保育士試験センター
『平成17年 保育士試験受験の手引き』社団法人全国保育士養成協議会 保育士試験センター
『平成18年 保育士試験受験の手引き』社団法人全国保育士養成協議会 保育士試験センター
『平成19年 保育士試験受験の手引き』社団法人全国保育士養成協議会 保育士試験センター
『平成20年 保育士試験受験の手引き』社団法人全国保育士養成協議会 保育士試験センター
『平成21年 保育士試験受験の手引き』社団法人全国保育士養成協議会 保育士試験センター
『平成22年 保育士試験受験の手引き』社団法人全国保育士養成協議会 保育士試験センター
『平成23年 保育士試験受験の手引き』社団法人全国保育士養成協議会 保育士試験センター